



税関の取締・検査機器

財務省・税関においては、これまで不正薬物やテロ関連物資などの水際取締りを効果的かつ効率的に実施するため、X線検査装置などの取締・検査機器を順次配備してきました。

時代が進むにつれ、人流・物流は更に増加し、密輸手口も多様化・巧妙化しており、税関の水際取締りにおける取締・検査機器の役割はより一層重要なものとなっています。

— X線検査装置 ～貨物を破壊することなく迅速な検査が可能～

X線検査装置は、検査対象貨物を破壊することなく、隠匿された不正薬物等の有無を的確かつ迅速に確認することが可能となっており、昭和56(1981)年以降に順次配備されています。現在では、不正薬物・銃砲等のいわゆる社会悪物品、爆発物や大量破壊兵器などのテロ関連物資などの密輸事犯に対応するため、輸出入される貨物、出入国旅客等の携帯品、国際郵便物などの検査の現場で、幅広く活躍しています。

固定式X線検査装置は、通関官署、空港、クルーズターミナル、国際郵便局の税関検査場などにおいて活用しています。

また、車両にX線検査装置を搭載した、移動式X線検査装置は、保税蔵置場や固定式X線検査装置が配備されていない税関官署においてX線検査を実施するため、主に各税関の拠点となる官署に配備し、機動的に活用しています。

さらに、近年では、コンピュータによる断層撮影を行い貨物の内部構造を3次元画像で把握することができる、X線CTスキャン検査装置を導入し活用しています。

— 大型X線検査装置 ～大型貨物の検査が可能となり、検査時間も大幅に短縮～

大型X線検査装置は、コンテナで輸出入される貨物やコンテナ自体を利用した密輸事犯が発生している状況を踏まえ、コンテナや自動車などの大型貨物の検査を可能とするため、平成13(2001)年に横浜港で初めて導入して以来、全国16か所(13港)に配備しています。これまでコンテナ貨物の全量取出検査には、コンテナ1本あたり2時間程度を要していましたが、この装置の導入により、10分程度で検査することが可能となり、検査時間が大幅に短縮されました。



監視艇「はぎ」(横浜税関 昭和26年配備)



昔は全て手作業で検査



大型X線検査装置の内部



大型X線検査装置

取締・検査機器の紹介

税関で活躍する取締・検査機器が、的確かつ迅速な検査を可能にしています

— 不正薬物・爆発物探知装置 ～不正薬物等の些細な痕跡の探知が可能～

不正薬物・爆発物探知装置(TDS)は、輸出入される貨物、出入国旅客等の携帯品、国際郵便物などの表面を拭き取ることで採取した検体をイオン化し、質量を分析することで、隠匿された不正薬物や爆発物を探知することが可能な装置で、平成17(2005)年から配備が進められています。

TDSにより、検査対象貨物を破壊することなく、短時間で、隠匿された不正薬物や爆発物を探知できることから、出入国旅客や輸出入貨物が急増する中でも、的確で迅速な検査が可能となりました。



— 埠頭監視カメラシステム ～昼夜問わず広範囲にわたる監視取締りが可能～

埠頭監視カメラシステムは、平成8(1996)年以降、全国の主要な港などに配備し、船舶等に対する取締りに活用しています。

この機器の導入により、埠頭内に設置された高感度カメラが捉える映像を昼夜問わずモニター室で監視することができ、港湾の複数埠頭に停泊する船舶やその乗組員、更には訪船者に対して、限られた取締職員数の中で広範囲にわたる監視取締りを同時に行うことが可能となりました。



— 監視艇 ～洋上の監視取締りに活躍～

監視艇は、海港等における密輸及び漁船などを利用した洋上取引に対処するとともに、それら密輸行為を抑止することなどを目的として配備しています。また、監視艇は、海上巡回による不審事象や不審船舶の発見、船舶の動静監視、外国貿易船への立入検査時における海上からの監視、離島における情報収集などに活用しています。

